



## ◇ SGHフィールドワーク 訪日インバウンドへのインタビュー

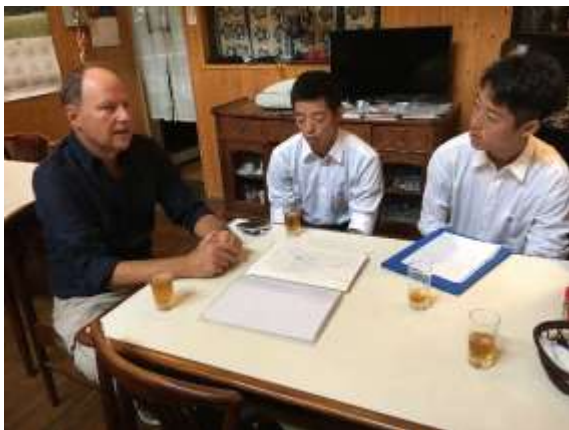
日 時: 平成29年10月1日(日)

場 所: そば処山九 Fling Chef

訪日外国人客(インバウンド)に人気の関市内のそば店で、関高生2名がインタビューを行いました。ご主人の小瀬木周司さんは関高校在学中に1年間、オーストラリアに留学。大学でも英語を学び、さらにシドニーのレストランでシェフを10年務めたそうです。英語版ウェブサイトや動画で人気が広まり、現在では世界各地から和食を習いにやってくるということで、新聞紙上でも話題を呼んでいます。

今回の訪問客はスイス人男性のサンドロさん。9月26日から10月3日まで料理教室に通い、そば打ちや天ぷらなどの和食づくりに励みました。サンドロさんはテレビ局勤務のエンジニアで、休暇を利用しての初来日。気さくな方で、関高生のインタビューに気軽にに応じてくださいました。

東京や名古屋のような大都会ではなく、SNSで見つけた関市の料理教室に。のんびり静かな関市が気に入り、毎日、市内を散策しているとのことでした。



### <参加した生徒の感想>

■ 生まれた環境、使う言語、受けた教育。それらを異にする相手との交流は、難しいものであるのと同時に多くのものを得ることのできる機会でもあります。約1年間のアメリカ留学生活を通して、そんなことにも慣れたと考えていた僕ですが、また新しい立場、環境の方と話をする機会を得ることができ、大変充実した時を過ごすことが出来たと考えています。

今回、スイス人のサンドロさんにインタビューするにあたって、スイスについて調べました。その知識を下地としてサンドロさんとコミュニケーションをとれたことで、スイスという国をより強く、身近に感じることができるようになりました。たとえば、電車の交通網で有名なのは日本ですが、スイスは日本に次ぐ電車の利便性を誇ります。多くのスイス人は日本に親近感を持っており、日本食レストランは高い人気を得ています。このような事実を知ることは、相手国との仲を深めることと同義です。

以前、国連本部を訪れた際にガイドをしてくれた韓国人の女性が語ってくれた、「世界平和のためには、世界中に友達を作ればいい」という言葉を思い出しました。

サンドロさんへのインタビューを通して、僕が最も印象深かったと感じたのは、「スイスが永世中立国であることをどのように考えていますか?」と尋ねたときのサンドロさんの返事でした。

彼はこう言いました。「我々は平和な国であり、どこの勢力に対しても中立であることをとても誇りに思っている。驚くべきことに、スイスでは 1515 年を最後に、それ以降一度も戦争に参加していないんだ。その中立性を買われて、北朝鮮とアメリカの首脳会談の会場にも選ばれるくらいだよ」彼の言葉からは、争いを忌み嫌う強い意思と、平和への憧れが感じられました。生まれた国が異なる相手とも、同じ志を持てる。そう僕に思わせてくれました。

今回のインタビューは、僕に多くのものを感じさせてくれました。今後もこのような機会があれば積極的にチャレンジし、将来への糧としてこうという決意を新たにしました。

■ 今回、スイスのサンドロさんにインタビューをして僕は色々な事を質問し学びました。趣味のこと、初めて日本に来た時の印象、日本に来た動機、なぜ岐阜なのか、なぜ日本食を学んでいるのか、さらには、永久中立国としてどう思うかとか政治のことなどまで多岐にわたりインタビューし学ぶことが出来ました。その中で、驚いた事はスイスでは、フランス語、イタリア語、ドイツ語、英語など様々な言語が地域によって話されるということです。なので、日本で言う NHK という番組は 3 つあって、それぞれ違う言語を話しているとのこと。また、大まかに分類した 3 つの地域間では英語も使われるそうです。日本語だけの日本とは全然違うなと思いました。

また、僕が日本の自然災害について聞いた時に、「日本人は地震や台風、津波など災害が多いが、恐れてはいないのか」と尋ねられました。僕たちが「恐ろしいがそうした自然の営みを受け入れている」と答えると、とっさに **part of life** とおっしゃった事が心に残っています。その後、「でも日本は自然が豊かで人も良くていい国だね！」と付け加えてくださって感動しました。

今回は、英語でのインタビューでしたが、意外に自分の簡単な英語が通じて自信になりました。でも、もっと相手のことを知れるように英語をうまく話せるようになりたいと思いました。本当に今回はサンドロさんに言語理解の面で助けてもらえました。インタビューをさせてもらいいい刺激になりました。本当にサンドロさん、そして機会を作っていただいた先輩の小瀬木さんに感謝しています。

今後、グローバル化が進み、多くの外国人が日本に来たり、逆に自分が海外に行くということが多くなると思います。その時に、今回の経験を活かして行きたいと思います。本当にいい経験をさせていただきありがとうございました。



**爆買いに象徴されるモノ消費から、体験型・参加型のコト消費へ。**

インバウンドのニーズも、多様化、個別化の時代。身近な関市内でのインタビューでも実感しました。2016年、岐阜県を訪れたインバウンドは1,013,490人。2013年と比較すると143%増。関高校のSGH活動では、今後も観光資源や観光開発の問題をとりあげていきます。